

### 3.4.7 2005年秋季(10~11月)分析結果

結果は、以下の表及び図としてまとめた。なお、値はすべてヒ素換算値とした。

表 3.4.9 2005年秋季(10~11月)地下水分析結果一覧表

図 3.4.16 2005年秋季(10~11月)ABトラック地下水 DPAA 汚染状況図

図 3.4.17 2005年秋季(10~11月)A井戸周辺地下水 DPAA 汚染状況図

図 3.4.18 2005年秋季(10~11月)B地区地下水 DPAA 汚染状況図

#### 1) A井戸周辺

夏季同様、A井戸直近南西と南東部が高濃度域として見られる。

春季の揚水後、夏季の分析では揚水井戸近傍で濃度低下が見られたが、本秋測定でやや上昇傾向にある(No.37、71など)。

また、A井戸直近南西のNo.39でも濃度上昇が見られる。

また、これまでほとんど汚染が確認されなかったA井戸の北側地域のNo.47、49の深度30mで非常に低濃度ながら汚染が確認された。

グラウンド北西角のNo.27では濃度が減少しているが、No.27よりA井戸寄りに位置するNo.155ではやや濃度が上昇している。

掘削地点付近では大きな変化はない。

#### 2) B地区

昨年夏季と比較して、汚染域に大きな違いはないが、濃度は全体に減少している。

また、汚染は30mを主体としている。

#### 3) AB間

浅部(10m)では汚染が全く見られないが、深部では断続的に見られる。濃度的にはやや減少傾向にある。これまで同様汚染は、30m付近を中心に広がっている。

#### 4) ABトラック外周

昨年夏季測定結果に引続き、南西端のM-20、M-3で汚染が確認された。

M-3の濃度に大きな変化はないが、M-20では濃度が上昇した(30mで31 194 µg-As/L)。

10~11月に、常陸利根川までを対象したすべての飲水井戸の検査を行ったところ、ジフェニルアルシン酸(DPAA)は確認されなかった。



図3.4.16 2005年秋季(10~11月)ABトラック地下水DPAA汚染状況図

単位:  $\mu\text{g-As/L}$

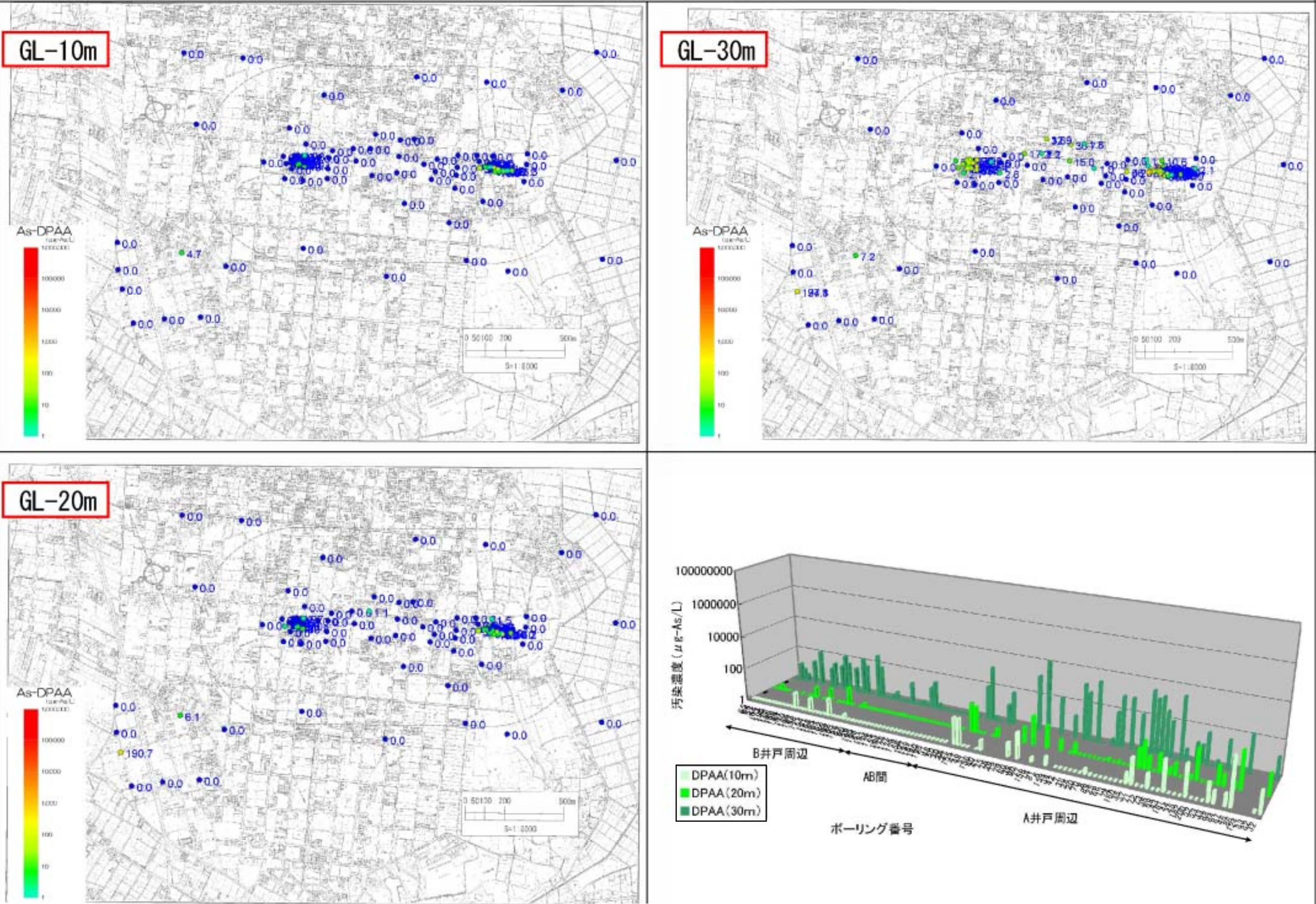


図3.4.17 2005年秋季(10~11月)A井戸周辺地下水DPAA汚染状況図

単位:  $\mu\text{g-As/L}$

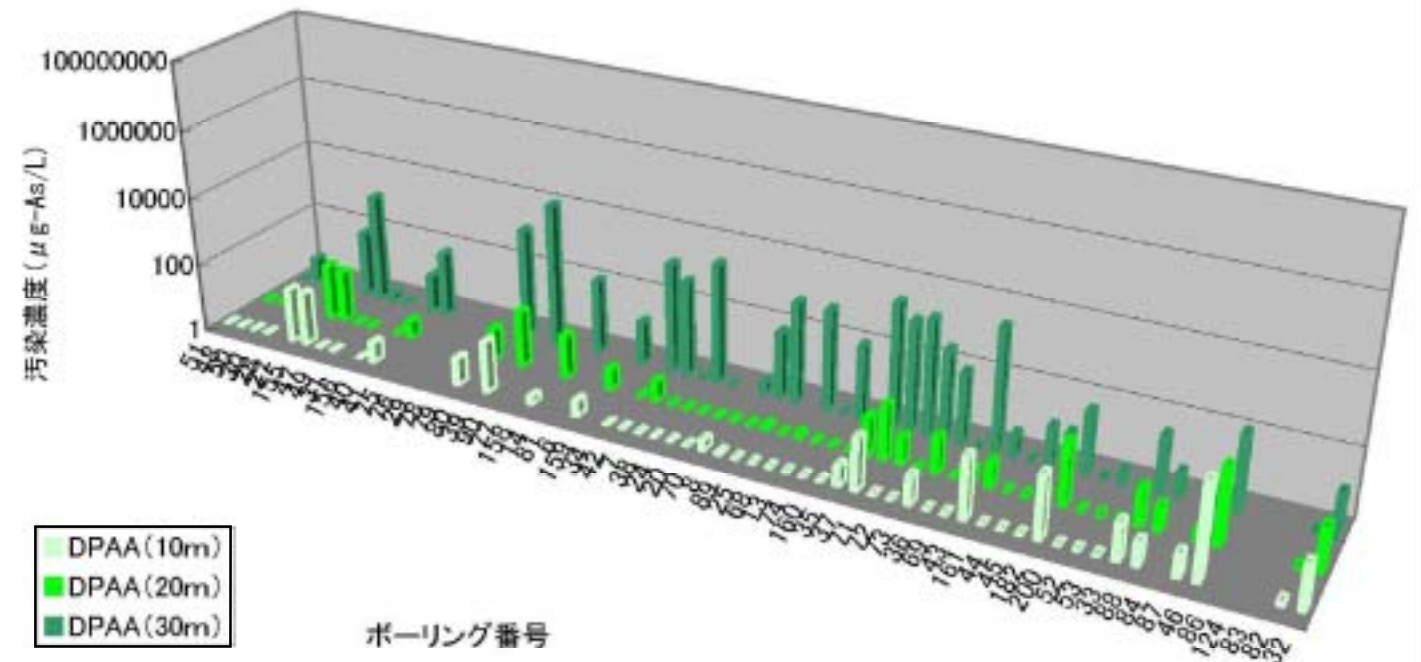
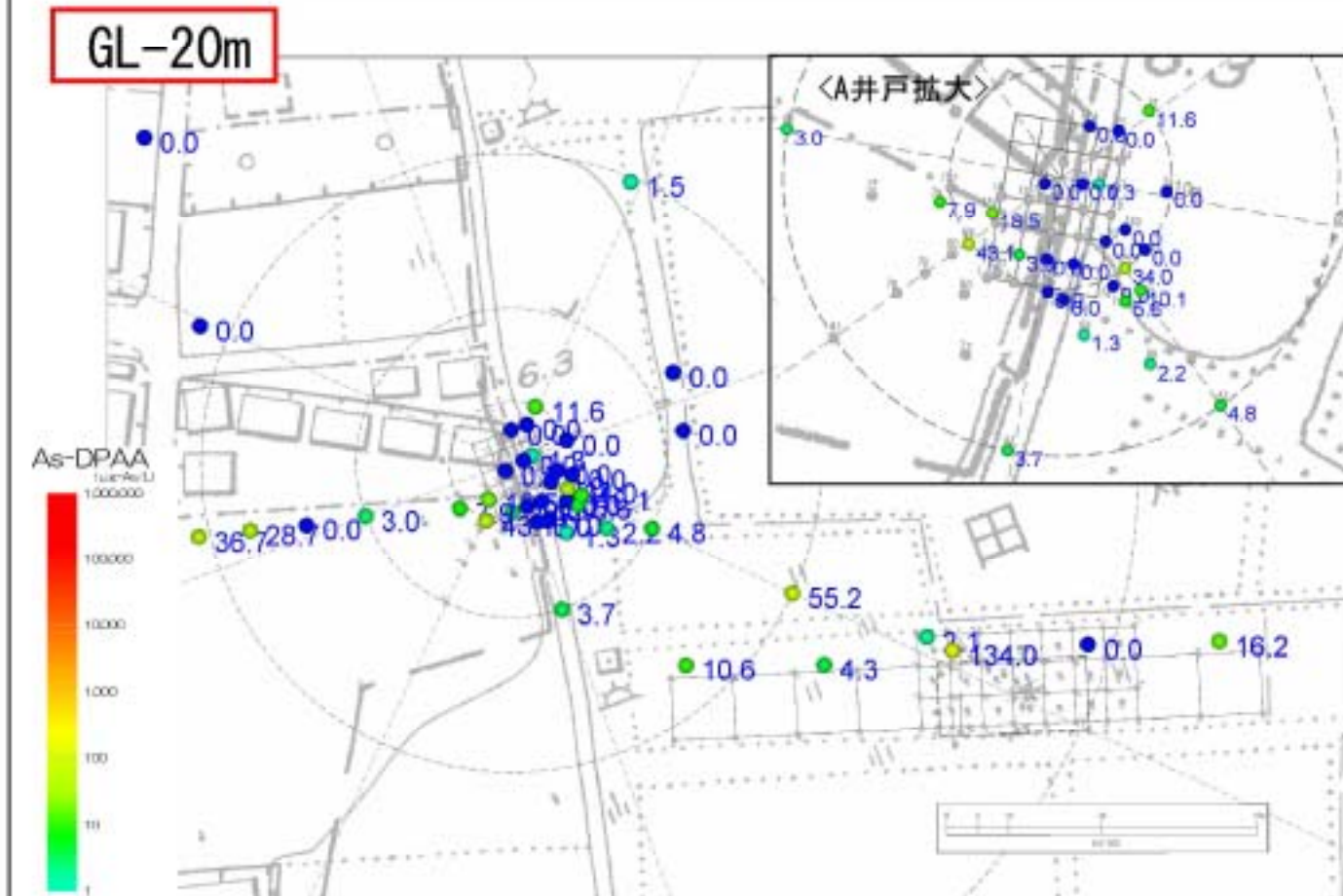
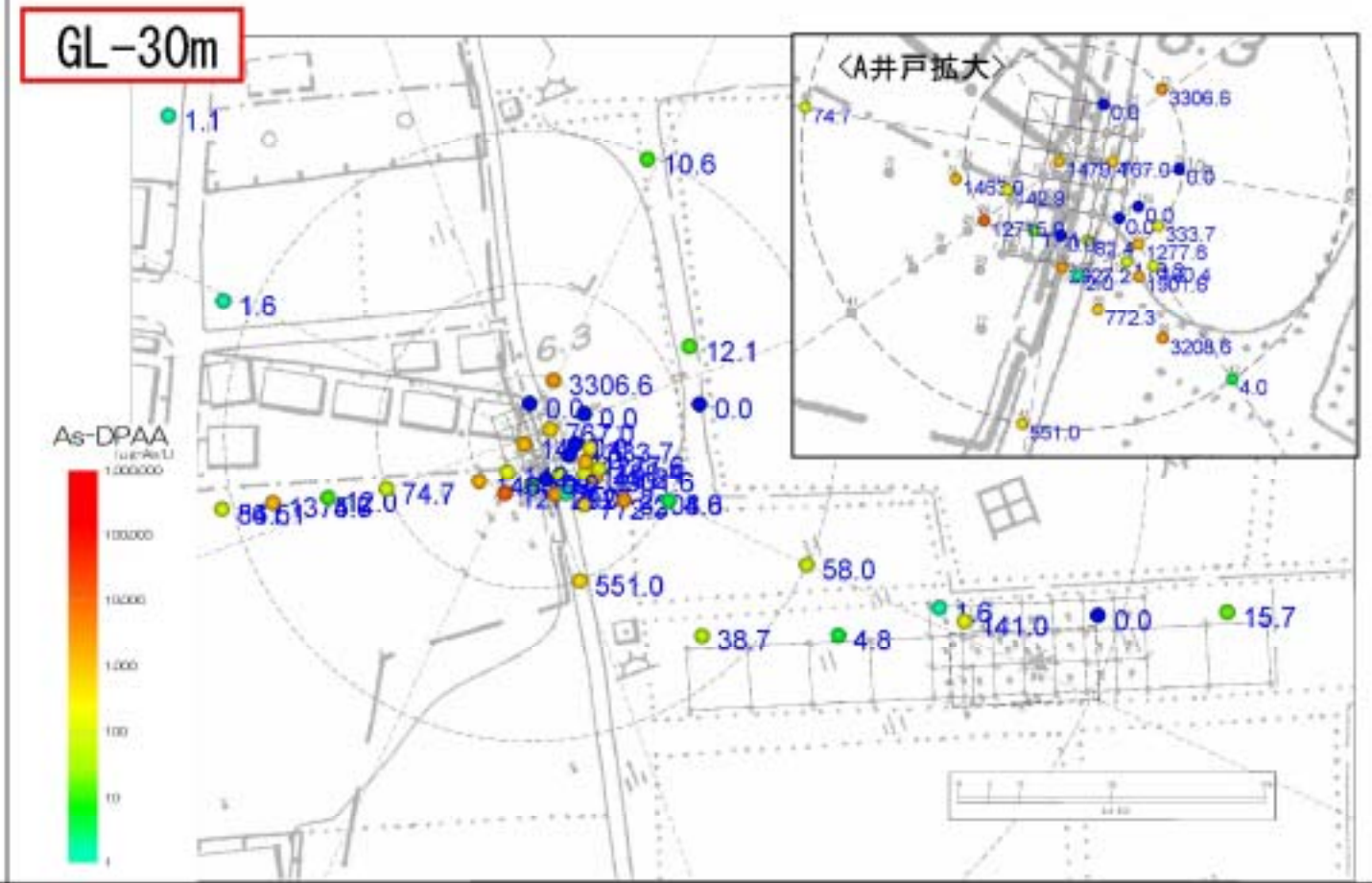
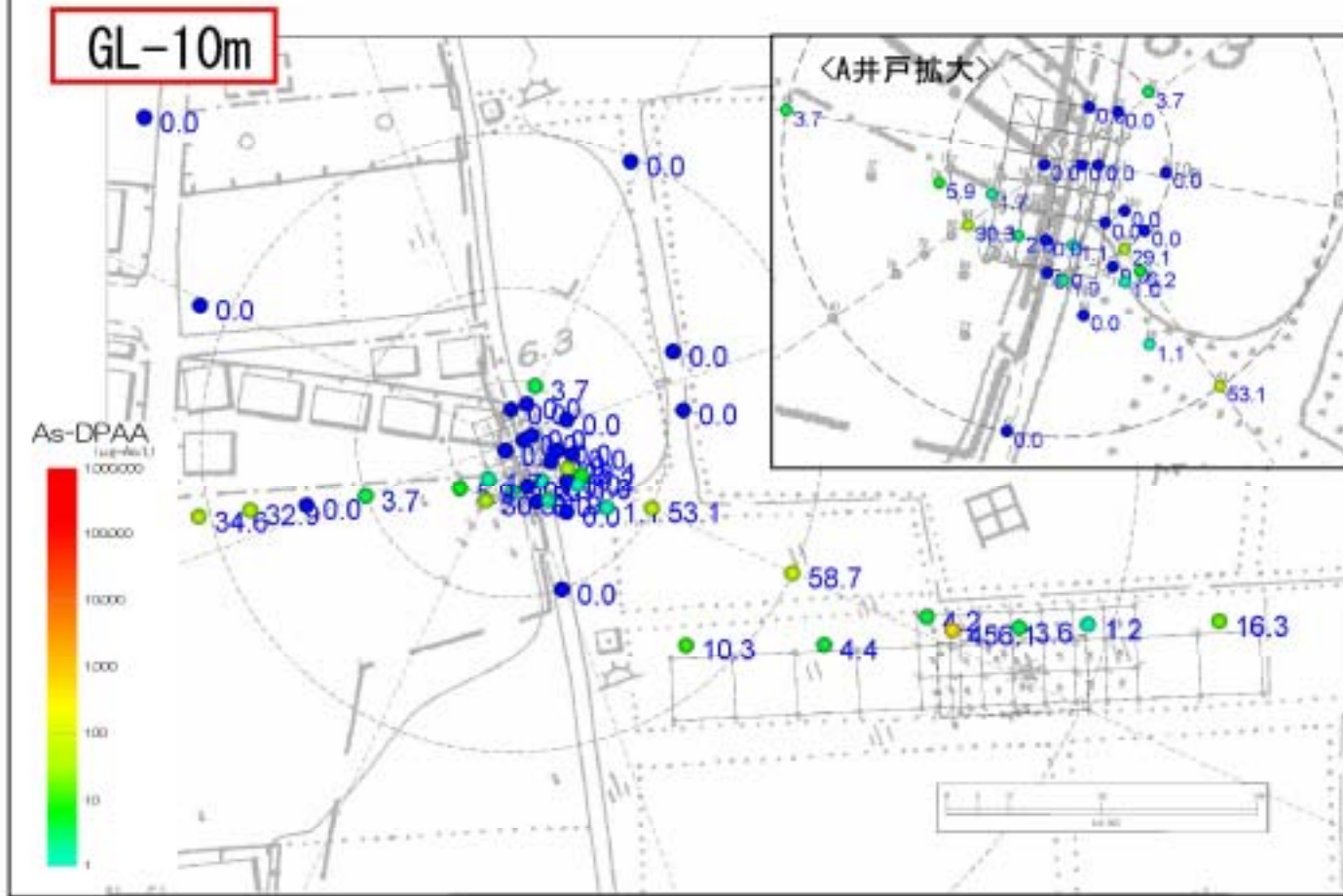


図3.4.18 2005年秋季(10~11月)B地区地下水DPAA汚染状況図

単位:  $\mu\text{g-As/L}$

